



特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

本部事務所
〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL 0847-89-0885 FAX 0847-82-2949

東京事務所
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL 03-5738-8020 FAX 03-3465-2112

E-mail meet@peace-winds.org
www.peace-winds.org

 ピースウィンズ・ジャパン  @PeaceWindsJapan



特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン



ANNUAL REPORT 2014

年次報告書
2014/2/1-2015/1/31



Contents | 目次

02	ビジョン・ミッション／ごあいさつ
04	PWJの挑戦 ― 設立20周年に向けて―
06	支援のプロを世界の現場へ
08	2014年度の支援事業マップ
10	2014年度の活動報告
19	個人からのご支援
20	企業・団体との連携／メディア掲載
21	活動年表／団体概要／組織図
22	2014年度の会計報告

Vision | ビジョン

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、
希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

Mission | ミッション

- 紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
- 社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
- 支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組めます。
- 支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
- 援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組めます。

ごあいさつ

今年もピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の1年間の活動を皆さまにご報告できますことを、たいへんうれしく思います。この場をお借りして、皆さまの日ごろのご支援にあらためて感謝申し上げます。

2014年度、PWJの活動は日本を含め11カ国におよびました。設立から一貫して人道支援を続けているイラク北部では、過激派組織「イスラム国」の攻勢で急増した難民や国内避難民に対し、キャンプの建設や物資の提供など大規模な支援を届けました。ケニアや南スーダンでは、治安が不安定ななか、スタッフの安全に留意しながら仮設住宅の建設や衛生支援にあたりました。スリランカ、ミャンマー、東ティモールなどでも、それぞれの地域の状況をふまえ、将来を見据えた活動に取り組んでいます。

災害への対応は新たな段階に踏み出しました。8月に広島市で起きた大規模な土砂災害では、訓練を続けてきた災害救助犬とレスキューチームが初めて行方不明者の捜索・救助にあたり、2人を発見しました。捨て犬から災害救助犬になった夢之丞の活躍は、メディアで大きな話題を呼びました。

2本目の柱として取り組む国内事業も、大きく進展しました。犬の保護活動を核としたピースワンコ事業では、広島市と神奈川県藤沢市に譲渡センターを開設し、「殺処分ゼロ」をめざして新しい飼い主探しに力を入れました。地元企業を支援する形で参画している神石高原町の観光コミュニティパーク事業は、2015年7月の開園に向けた準備が進み、過疎地振興のモデルとして注目されています。

2016年2月にPWJは設立20周年を迎えます。19年間の実績により、PWJは日本を代表するNGOの一つとして認知されるようになりましたが、常に新しい課題にチャレンジする姿勢を持ち続けなければ、私たちの存在意義はないと考えています。皆さまのご支援を力に、より大きく飛躍できるよう、今後も挑戦を続けます。引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2015年5月
特定非営利活動法人(認定NPO)
ピースウィンズ・ジャパン

代表理事 大西 健丞



ピースウィンズ・ジャパンの挑戦 ― 設立20周年に向けて ―

設立から19年を経て、PWJは予算規模が30億円に達し、日本を代表するNGOの一つに成長しました。その原動力は、社会の仕組みを変えるため、常に新しいことにチャレンジし、道を切り開いていく姿勢です。20周年に向けて進化を続けるPWJの姿を、4つのキーワードで紹介します。

1

紛争地に 大規模な支援を

紛争地での大規模でスピーディーな活動は、PWJの真骨頂です。治安が悪く支援の届きにくい場所にこそ、最も支援を必要とする人がいる――これが団体の設立時から変わらぬ私たちの考えです。2003年のイラク戦争では、他の支援団体が撤退した後も現場に踏みとどまり、困難を乗り越えて活動を続けました。安全を守るための工夫を重ね、機動力をさらに磨いて、多くの難民の窮状を救うインパクトのある支援を届けます。

2

救命めざし、 いち早く

地震や津波だけでなく、大型化する台風や洪水、さらには火山の噴火など、突発的な自然災害による人道危機が世界中で拡大しています。PWJは、食料や生活物資の配布から始めるのがふつうだった従来の緊急支援から、災害救助犬とレスキューチームによる人命救助へと、一步を踏み出しました。いち早く現場に駆けつけ、一人でも多くの命を救うため、日々の鍛練はもとより装備やロジスティクスの強化にも力を注いでいます。

3

支援に ビジネス感覚を

支援はいつまでも続けるものではなく、支援を受ける人が自立し、助けなしで生活できるようになることが目標です。そのための鍵の一つがビジネスの手法や感覚だとPWJは考えています。商売を通じて自ら考え、工夫や努力をすることが、途上国の人たちの可能性を広げます。世界ではNGOが銀行を買収し、金融を支援に活用している例もあります。私たち自身が固定観念を捨て、新たな手法を追求することを心がけています。

4

地域の 課題解決のモデルを

日本でもすべての公益を役所が担う時代は終わりました。少子高齢化や産業の衰退が進み、生き残りをかけた地域間の競争も激しくなる中で、民間の立場からよりよい社会づくりに貢献することがPWJの新たな使命です。本拠を移した広島県神石高原町では、動物保護、観光、医療など、分野を問わず、率先して地域の課題解決に取り組んでいます。地元の人とともに考え、他の地域にも応用できるモデルづくりをめざします。



現場を支える支援のプロ

ピースウィンズ・ジャパン スタッフインタビュー



国内事業部部長

國田 博史(写真左)

1991年に京都大学教育学部教育心理学科を卒業後、1991年から2001年にかけて朝日新聞社に記者として勤務。2003年にPWJに入団した後、統括責任者補佐、国内事業部チーフとして渉外・広報・資金調達などの業務を経験したほか、新潟県中越地震、パキスタン地震、中越沖地震、スマトラ島西部地震、東日本大震災、中国雲南省地震発生時に現場入りし、緊急支援に従事した。2014年から現職。

PWJに携わり始めたきっかけを教えてください。

前職の新聞記者でNPOに関する連載企画を担当していたとき、旧ユーゴのコソボで紛争が起き、日本のNGOによる帰還難民の支援活動を現地で取材しました。ひとくちにNGOといっても、野球にたとえば少年野球からメジャーリーグまでいろんなレベルがあるというのが率直な印象でしたが、その中で一番効果的な支援をしていると思ったのがPWJでした。私もまだ30歳を過ぎたばかりでしたが、同年代の若者が紛争直後の現場で国連や海外のNGOと交渉しながらてきぱきと仕事をこなす姿に感銘を受けました。また、現代表理事の大西を取材したとき、難民支援を上手にできれば満足なのではなく、NGO・NPOがもっと大きな役割を担うように日本社会を変革することが一番の目標だと聞き、心から共感しました。私自身、日ごろ政治家や官僚を主に取材しながら、もっと民間が公の仕事に割り込んでいかなければ社会はよくならない、と感じていたからです。

活動内容について、詳しく教えてください。

PWJは現在、海外での人道支援と並ぶ2本目の柱として、国内の社会的課題の解決に挑戦しています。自治体や住民のみなさんと協力し、プロジェクトを動かすのが私の仕事です。具体的には、過疎・高齢化が進む広島県神石高原町で、地域の観光、医療、教育などを盛り立てるプランづくりとその実行をお手伝いしたり、犬や猫の殺処分ゼロをめざすしくみの構築に取り組んだりしています。ときには緊急支援で国内外の災害現場にも行きます。これまでに新潟、パキスタン、インドネシア、東北、中国で地震後の被災者支援に携わりました。

特に印象に残っているトピック(胸があつくなった瞬間など)を教えてください。わりとドライな性格ですが、東北の支援では、同じ日本ということもあって感情移入することが多かったです。特に、大勢の子供が犠牲になった学校を訪れ、泥まみれのランドセルや写真を見たときは、同じ年ごろの娘が2人いるせいか、こみ上げるものを禁じ得ませんでした。

國田さんが活動する上で、大切にしていることは何ですか。

国内事業はPWJにとって新しい分野で、地元の方との関係の築き方も、資金調達のやり方も、海外の事業とは違う点がたくさんあります。ですので、これまでの経験やノウハウにとらわれず、柔軟に考えることを心がけています。

今後の目標・夢を教えてください。

PWJは国際協力NGOとして知られ、事業規模的にも海外事業がほとんどを占めています。国内事業をもっと成長させ、太い柱に育てたいと思います。神石高原町で取り組んでいる課題解決のモデルづくりを成功させ、全国の自治体などから「うちの地域づくりにも手を貸して」と頼りにしてもらえるようになることが目標です。

PWJに携わり始めたきっかけを教えてください。

小学生のときに平和教育で戦争の悲惨さに触れて以来、世界平和に貢献できる国際的な仕事がしたいと考えていました。ある日、イスラエル・パレスチナ問題の記事を読み、『戦争』=『昔のこと(もう二度と繰り返してはならないこと)』と捉えていた私にとって、外国では『戦争』や『武力紛争』がまだ起こっていることにショックを受けました。同時に、「紛争が予防できたら、一般市民が巻き込まれて命をおとさなくてすむ」と強く考えるようになり、アメリカで修士号取得後、迷わず紛争予防をミッションの1つに掲げるNGO「ピースウィンズ・ジャパン」に入団しました。

特に印象に残っているトピック(胸があつくなった瞬間など)を教えてください。

2014年8月上旬、イラク北部のクルド人自治区で支援活動に従事していたことです。過激派組織「イスラミック・ステイト」(ISIS)が同自治区にも攻撃をしかけてきました。クルド自治政府はISISの襲撃を全く予期しておらず、対抗できる武器が当時十分に揃っていなかったため、政府をはじめクルド人自治区の人びとは一時騒然となりました。日ごとに危機感が強まる中、週末を迎える前日の午後、PWJイラク現地代表(クルド系イラク人)が、全てのスタッフを集め、こう話しました。「明日は週末です。皆には家族がいるから、家族の命を守るために避難するという考えに対して何も言うつもりはありません。私はISISが銃をつきつけてもその場から逃げないし、支援を必要としている人がいるかぎり、来週もこの職場でまた皆とともに支援を届けたい」。このイラク現地代表の言葉は皆に深く響き、翌週全スタッフが笑顔で出勤していました。現地スタッフの人びとを救いたいという思いの強さをあらためて感じ、共に支援活動に携わることができていることを誇りに思いました。

牛田さんが活動する上で、大切にしていることは何ですか。

活動する国・地域の人びとの考え方や問題解決に対するアプローチを尊重しています。また、現地スタッフは、独自のネットワークを持ち、現地事情に精通しており、国際スタッフの安全確保も現地スタッフが担っているといっても過言ではないので、現地スタッフとの信頼関係を大切にしています。これは支援活動を円滑に進めるためだけではなく、治安の悪い地域で身を守る術でもあると考えています。

今後の目標・夢を教えてください。

一生かけて世界平和に貢献できる活動をしていきたいです。そのひとつとして次世代への教育の大切さを感じています。世界の子どもたちに国籍や人種は関係なく『世界はひとつ』であること、グローバルな問題は地球上に住むひとりひとりに関係していることであり、それを解決するためにも、ひとりひとりが考え、行動を起こすことが大切であることを伝えていきたいです。



海外事業部スタッフ

牛田 真也子

2001年3月に東京外国語大学インドネシア語学科を卒業後、2003年5月に米国タフツ大学フレッチャースクールで修士課程法外交修士号取得。全国難民弁護団連絡会議の初代コーディネーターやユニセフ駐日事務所インターンなどを経て、2003年8月にPWJに入団。以来、イラク、東ティモール、アフガニスタン、イラン、インドネシアなど計12カ国の現場と東京で緊急・復興・開発支援活動に従事。

2014年度の活動一覧

2014年度は11カ国、計12地域で活動し、
受益者数は、およそ26万人+5,400世帯におよびました。

- これまでに活動した地域
- 2014年度に活動した地域



国内避難民支援



シリア難民支援



難民帰還促進支援



ソマリア難民支援

2014年度の支援事業一覧

イラク			実施場所	受益者
開発支援	インフラ整備	小学校の建設・増築・修復	ニナワ州	2,300人
シリア難民支援	インフラ整備	難民児童向け学校、仮設住宅、排水路の建設	ドホーク州、アルビル州、スレイマニア州、ニナワ州	11,905人
	生活物資配布	新規難民世帯および脆弱性の高い難民世帯への生活物資配布	ドホーク州、アルビル州	51,440人
	衛生促進	難民キャンプにおける衛生促進教育実施	ドホーク州、ニナワ州	17,630人
	学校健診	難民児童向けの学校健診実施	ドホーク州、アルビル州、スレイマニア州、ニナワ州	9,625人
国内避難民支援	インフラ整備	仮設住宅、井戸の建設、簡易公衆トイレの設置	ドホーク州、ニナワ州	28,029人
	生活物資配布	衛生用品や冬物衣料など生活物資配布	ドホーク州、アルビル州、ニナワ州	79,830人

南スーダン			実施場所	受益者
国内避難民支援	水・衛生	国内避難民キャンプでの給水、ごみ回収、清掃、排水路整備、トイレと手洗い場の設置、衛生普及員研修と衛生指導	中央エクアトリア州	29,931人
		学校トイレと手洗い場の建設、衛生研修と普及活動	ジョングレイ州	2,328人
	物資配布	洪水被災者に対する水・衛生関連の緊急物資配布	ジョングレイ州	857世帯

ケニア			実施場所	受益者
ソマリア難民支援	インフラ整備	仮設住宅の建設	ダダープ難民キャンプ	2,168世帯

アフガニスタン			実施場所	受益者
復興支援	能力強化支援	NGO能力強化トレーニング	アフガニスタン全土	1,347人

東ティモール			実施場所	受益者
地域開発支援	コーヒー生産者自立支援		エルメラ県・リキサ県	1,160世帯

スリランカ			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	コミュニティ再生、地域経済の持続的発展	農家組合による精米所、牛乳集荷センターの運営支援	トリンコマレ県	250世帯

受益者数の算出について：村でのインフラ整備など、事業実施地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。



雲南省地震被災者支援



教育・子ども支援



東北復興支援



地域活性化支援



台風22号レスキュー隊出動



地域開発支援



帰還民再定住支援

フィリピン			実施場所	受益者
台風30号被災者支援	住居修復支援	住居修復資材配布及び技術指導	レイテ島	690世帯
	教育支援	台風により全壊した保育所2カ所の再建、園児への学用品配布		180人
台風22号レスキュー隊出動	レスキュー隊派遣	捜索救助活動に備えたレスキュー隊派遣と被災状況調査	サマル島	なし

日本			実施場所	受益者
東北復興支援	コミュニティ支援	高齢者等の活動拠点づくり 地域の手仕事や趣味サークルの講座・イベント・視察の開催 現地NPOの立ち上げ及び運営支援 福島県移住者支援	宮城県南三陸町 宮城県気仙沼市 福島県相双地域	地域住民 不特定多数
	地域防災向上支援	防犯用ソーラー街灯の設置	福島県浪江町・宮城県南三陸町	
	漁協支援	漁師用防水ウェア、手袋、長靴などの備品提供、漁港への街灯設置	宮城県南三陸町	
	生計支援	伝統工芸職人のネットワーク支援 地元産品の販売・レストラン建設	東北6県 宮城県気仙沼市	
	被災犬猫支援	被災した犬や猫の保護	福島県・広島県・大阪府	
地域活性化支援	災害救助犬・セラピー犬の育成		広島県神石高原町	N/A
	捨て犬等の保護・譲渡			N/A
	観光振興・まちづくり			N/A
広島土砂災害被災者支援	レスキュー隊派遣・物資配布・コミュニティ支援		広島市	不特定多数

モンゴル			実施場所	受益者
教育・子ども支援	貧困家庭の子どもの自立支援		ウランバートル市	3人

ミャンマー			実施場所	受益者
難民帰還促進支援	水・衛生	井戸建設及び衛生知識向上研修	カレン州	13,126人
	地域発展	コミュニティの災害リスクの軽減	カレン州、イラワジ地域	N/A

中国			実施場所	受益者
雲南省地震被災者支援	物資配布	食料・衣類等の配布	雲南省昭通市	240世帯
	教育支援	学用品の配布		9,068人

1 紛争地に大規模な支援を



IRAQ

🇮🇶 [イラク]

内戦が続くシリアからの難民に加え、2014年6～9月のイラク国内情勢の悪化により、新たに80万人がPWJの活動地であるイラク北部クルド人自治区に避難してきました。PWJは緊急事態に対応し、約8万人に食料や生活物資を配布したほか、国連や現地政府と協力して大規模な避難民キャンプを1,820戸建設しました。シリア難民についても、長引く避難生活の中で人々が健康に暮らせるよう、難民キャンプの整備や仮設学校の建設、約1万人の子どもたちを対象にした集団健診を行いました。厳しい冬場には、暖房器具や灯油、児童向けコートの配布も行いました。

「イスラム国」の
侵襲から避難した
少年たちの声



ふるさとは学校に通っていましたが、ここでは勉強をするチャンスがありません。今幸せに思うことは、家族や友人と一緒にいけることです。できるなら、また学校に行きたいです(15歳の少年)

イスラム国に捕まったら殺されるので逃げました。僕にとって平和とはふるさとの村に帰ることです。誰にも邪魔されず、サッカーをしたいです(12歳の少年)

今は囚人のような暮らしで、怖いので出歩くことができません。次に何が起こるか分からないので恐怖を感じています。平和とは、恐怖や不安を感じずに自分のふるさとで幸せに暮らすことだと思います(16歳の少女)

SOUTH SUDAN

🇸🇸 [南スーダン]

現在も分裂した軍閥による武装闘争が続き、多くの人びとが避難生活を送っています。PWJは2006年から同国で井戸掘削などの支援を続けてきましたが、2013年末の軍事衝突後、駐在員は国外退避を余儀なくされ、現在は隣国ケニアの首都ナイロビから遠隔指示で事業を進めています。2014年度は、現地NGOと連携して避難民キャンプや学校の衛生支援に取り組み、首都ジュバの国内避難民キャンプ2カ所でのごみ回収(3,500トン)やトイレの建替(104基)、補修(54基)、衛生普及員の育成などを行いました。また、10月に発生した洪水被害に対し、857世帯に水・衛生キットを配布しました。



KENYA

🇰🇪 [ケニア]

PWJは2012年から、干ばつと治安悪化によって隣国ソマリアからの難民が多数流れ込んだダダーブ難民キャンプにおいて、仮設住宅建設の支援を続けています。2014年度は2,168戸を建設し、PWJが現在までに建設した仮設住宅は5,322戸になりました。2014年末からソマリア難民の帰還が試験的に始まりましたが、治安が不安定なために母国に帰りたくても帰ることができない人びとが多く、ダダーブ難民キャンプでは現在も約35万人が暮らしています。キャンプで暮らす難民の人びとが快適な居住空間で生活できるよう、PWJは引き続き、仮設住宅の建設に取り組みます。



AFGHANISTAN

🇦🇫 [アフガニスタン]

2013年3月から、アフガニスタンの市民社会を代表するCivil Society Organization(CSO)ネットワーク組織の能力を強化するための事業に、日本の3つのNGOと連携して取り組んでいます。2014年度は、助成金などを獲得してプロジェクトを運営するための実務研修を実施しました。

AFGHANISTAN

IRAQ

SOUTH SUDAN

KENYA



HIROSHIMA

●【広島】

2014年8月20日、広島市で発生した大規模な土砂災害で、PWJは災害救助犬とレスキューチームを初めて現場に派遣しました。救助犬チームは、災害発生初日の正午前から夜間まで、同市安佐南区で捜索・救助活動にあたり、行方不明者2名の発見、救出に尽力しました。そのほか、避難所を回ってマットレスやペットフードなどを配布したり、被災のために飼えなくなったペットを一時的に預かりました。また、11月からは地元の団体と協力し、イベントを通じて高齢者を中心とした被災地の住民の交流を促す活動を続けています。

こんな
訓練に励んで
います



- ①ヘリや高所からの降下訓練
- ②チェーンソーなどの資機材操作訓練
- ③ロープで担架をつるして下ろすなどの負傷者搬送訓練
- ④心肺蘇生法やファーストエイドなどの救命活動想定訓練
- ⑤山岳救助を想定した雪山登山訓練
- ⑥筋トレ、ランニングなどの体力訓練

VOICE



災害救助犬ハンドラー
原田 一兵 (23)

初の現場でしたが、大量の土砂が家を押し流しているという災害現場を目の当たりにし、不安よりも「早く行方不明者を見つけなくては」という思いが強かったです。犬も集中し、積極的に捜索していることが伝わり、互いに緊張を高め合うことができました。

今回の出動を通して、事前準備の大切さや、捜索活動をしながらい自分が二次災害に遭わないように危険を感知する力を身につける必要性を痛感しました。

CHINA

🇨🇳【中国】

2014年8月に中国雲南省昭通市で発生したM6.5の地震を受け、PWJは発生翌日、スタッフ3人を現地に派遣しました。現地は土砂崩れや落橋で道路が寸断され、被災地へのアクセスは困難を極めていましたが、スタッフは山越えの道なき道を物資を担いで運び、延べ240世帯分の食料、衣類、寝具等を配布しました。9月以降は、現地協力団体と、被災した約9,000世帯の子どもたちに学用品を配布しました。配布された学用品は学習に役立っただけではなく、子どもたちにとって震災前の日常を取り戻すきっかけとなり、心理的な支えにもなりました。



PHILIPPINES

🇵🇭【フィリピン】

2013年度の緊急支援に続き、レイテ島カリガラ町において、台風30号(ハイエン)で被災した690世帯を対象に仮設住宅の建設支援を行いました。また、幼稚園の新年度に合わせ、同町内の全壊した保育園2カ所を修復し、園児180人に学用品セットを配布しました。14年12月には、フィリピン中部に上陸した台風22号(ハグビート)の被害に即時対応するため、上陸前日に災害救助犬チームが現地入りし、台風通過後、直ちに被害状況の調査に当たりました。大型台風が頻発するフィリピンに関して、PWJは引き続き、救助犬チームによる人命救助、それに続く緊急支援活動に備えます。



HIROSHIMA

●広島市

CHINA

PHILIPPINES ●レイテ島



SRI LANKA

🇱🇰 [スリランカ]

2009年の内戦終結で避難民キャンプから故郷へ帰還した人びとの生活を再建するため、東部トリンコマレ県で、稲作農家・酪農家への生計支援を行っています。2014年度は、農家による協同組合の設立、精米所と牛乳を地元で加工・販売する牛乳集荷センター兼直売所の建設、組合員へのビジネス研修を実施しました。9月に運営を開始した牛乳集荷センター兼直売所は、幼稚園に給食用牛乳を配達し、地域からも好評を得ています。2015年度は、地元行政と連携し、組合がより自立した施設運営を行っていけるようサポートします。

こんな
ビジネス研修
やっています



事業計画の策定や会計、マーケティング、施設運営などのビジネスの基礎知識について、外部専門家によるワークショップを開催し、協同組合の組合員が参加しました。ビジネス経験がほとんどない中でのスタートでしたが、組合員はほかのメンバーと話し合いながらワークショップに取り組み、意思決定をするリーダーシップやチームワークも身につけました。

VOICE



協同組合理事
ナリカ・ダマヤンティさん

精米所がオープンした時、自分たちの事業が始まったことを実感し、感動しました。想定よりも米の売値が低いなど、計画通りに進まないこともありますが、研修で学んだことを生かし、ほかの理事とも話しあい、日々運営に取り組んでいます。

EAST TIMOR

🇹🇲 [東ティモール]

PWJは2003年にコーヒー生産者支援を本格化し、当初35世帯だった農家は、現在520世帯にまで増えました。2014年度は初めて、地元生産者がつくったコーヒーをアメリカとオーストラリアに輸出しました。「今までの東ティモール産コーヒーとは全くの別物」という声も聞かれ、東ティモールレテフォホ産のコーヒーは国際市場で高品質で美味しいコーヒーとして認知されつつあります。また、東ティモールの首都ディリにカフェをオープンし、東ティモール初の品質にこだわった国産コーヒー専門店として人気を集めています。



MYANMAR

🇇🇲 [ミャンマー]

長年の民族紛争で隣国に逃れた難民や国内避難民の帰還に備え、2013年にカレン州で始めた給水事業では、2015年1月までに18村26カ所で安全な飲料水を供給するための井戸の建設、修繕を行いました。加えて、井戸の保守管理や衛生的な維持の方法、手洗いなど衛生的な生活習慣を身につけるための講習を村人に実施しました。また、カレン州では、雨季の初めに河川の氾濫で洪水が発生する村も多いため、地域住民や行政、地元NGOが参加する災害対策協議会の設置、地域の防災計画作成、避難訓練の実施などの防災事業も2014年に開始しました。



MONGOLIA

🇲🇳 [モンゴル]

貧困や家庭の事情のために親元で暮らすことができない子どもたちを支援するため、PWJが運営していた児童保護施設「ホックタイル」から「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちへの支援を2014年度も継続しました。2015年1月、3人がセンターで生活しています。





HIROSHIMA

● [ピースワンコ・ジャパン事業]

殺処分ゼロをめざした犬の保護・譲渡では、広島県神石高原町の保護施設を拡張し、常時200頭を収容できる態勢を整えました。また、2014年4月に広島市、12月には神奈川県湘南地域に譲渡センターを開き、保護した犬と里親さんとの出会いの場づくりに努めました。ふるさと納税を犬の殺処分ゼロに活用するしくみや、譲渡が難しい犬の終生飼育の費用を支えていただく新たな会員制度をスタートさせ、多くのご支援をいただいています。災害救助犬やセラピー犬の育成、ドッグランやドッグホテルなどの運営にも引き続き力を入れています。

ピースワンコ・
ジャパン
の活動

- 1 施設を準備する
- 2 殺処分前の犬や捨て犬を保護する
- 3 獣医師による健康管理を行う
- 4 ドッグトレーナーがしつけを行う
- 5 新しい飼い主を探す



災害救助犬「夢之丞」が初出動しました！

2010年11月、広島県動物愛護センターで殺処分直前だったところをPWJが引き取り、災害救助犬の訓練を続けてきた夢之丞（ゆめのすけ）。最初は人間を警戒し、なかなか部屋から出てこないなど心を閉ざしていましたが、ハンディを乗り越えて訓練に励み、2014年8月の広島土砂災害の現場に災害救助犬として初出動しました。現場では行方不明者1名を発見し、「一度人に捨てられた命が人の命を救う」という目標に一步近づきました。

TOHOKU

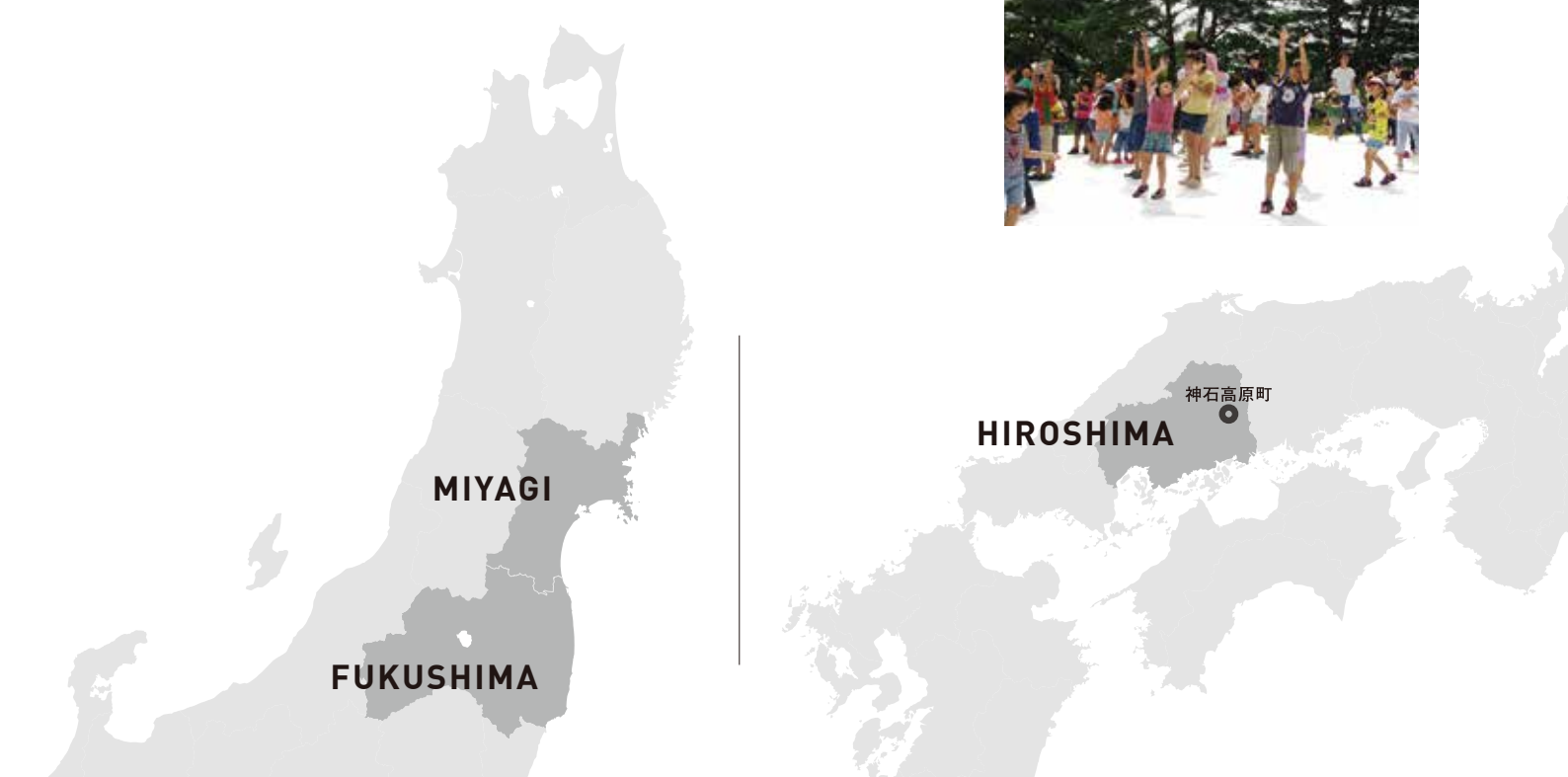
● [東日本大震災被災者支援]

2011年3月に発生した震災から4年。被災地では大がかりな復興工事が進む中、いまだ約9万人が仮設住宅で暮らしています。2014年は、宮城県や福島県において、主に地域の活性化に取り組む地元団体と協働で事業を行いました。具体的には、高齢者向けの「エコ平板」創作体験講座や子どもを対象にした化学実験教室の開催、住民の活動拠点「晴谷驛（ハレバレー）」の建設、漁港周辺のソーラー街灯設置や地域産業の復興支援などです。長期化する原発避難者への支援として、被災犬の保護事業も行いました。2015年も地元団体との協働に重点を置き、活動を続けます。

HIROSHIMA

● [広島県神石高原町 地域再生事業]

PWJは本部のある広島県神石高原町で過疎地域の活性化に取り組んでいます。2014年度は、「人と動物と自然の共生」をテーマとした観光コミュニティパーク「神石高原ティアガルテン」の開園に向け、事業主体となる地元の企業を支援。マーケティングや金融などの専門家を派遣して計画づくりを支援するとともに、2社に計3,300万円を出資しました。現地では2015年7月のオープンをめざして準備が加速しています。また、神石高原町の景勝地である帝釈峡の観光振興、イベント「神石高原マルシェ」の開催などにも、地元の企業やNPOと連携して取り組みました。



フェアトレード事業

今年もコーヒーを多くの方に届けると同時に、フェアトレードを広める活動に力をいれました。

「有機ピースコーヒー」が仲間入り

豆の産地を標高1,800メートル以上の場所に限定した最高級シリーズ「有機ピースコーヒー」の販売を開始しました。フェアトレード商品であると同時に、コーヒーの味も一段と高め、早速、多くの方に購入いただいています。黒を基調にしたスタイリッシュなパッケージやオフィシャルサイト(<http://peace-coffee.com/>)などのブランディングは、株式会社エーミライトデザインのプロボノ活動により、実現しました。

クラウドファンディングで目標達成！

PWJ東ティモール事務所のスタッフを東ティモール人初のQグレーダー（ワインのソムリエのような役割）として育てるため、「人を育て、国を応援しながら究極に美味しい東ティモールピースコーヒーを飲もう」と題して、100万円を集めるプロジェクトに挑戦しました。最終的に119人の方の賛同で1,142,300円の資金を得ることができ、目標を達成しました。現在、東ティモール人スタッフは資金を活用し、Qグレーダーになるための勉強に取り組んでいます。

「こんなところに日本人」でPWJ永井が紹介

8月、朝日放送「世界の村で発見！こんなところに日本人」で、PWJ東ティモール駐在スタッフ永井亮宇が紹介されました。PWJが東ティモールで行っているフェアトレードコーヒーの生産、精製過程が紹介されたほか、永井が家族や東ティモールへの想いを語りました。たくさんの方から反響をいただき、PWJの活動やフェアトレードコーヒーのことを知っていただく良い機会となりました。



NGO相談員

PWJは、2013年度に引き続き、外務省より「平成26年度NGO相談員」の委嘱を受け、活動をしました。「NGO相談員」は、国際協力活動、NGOの設立、組織の管理・運営といった、NGOに関する市民や関係者からの質問・照会に答えたり、国際協力への理解の促進のため、イベント出展や講演などの「出張相談サービス」を行ったりしています。2014年度は、小・中・高等学校や大学、国際交流のイベントなどに計23回出張し、講演やワークショップを通して、国際協力の活動を子どもたちや一般の方に伝えました。



いろいろなご支援

PWJには、どなたでも手軽にご支援いただける、さまざまな方法があります。より多くの方にPWJの活動を知っていただくために、皆さまのご参加を募っております。

毎月のご寄付



PWJの活動全般を支援する
ピースサポーター
月額 1,200円～



東ティモールの
コーヒー生産者を支援する
コーヒーサポーター
月額 500円～



災害救助犬の育成
保護犬活動を支援
ワンだふるサポーター
月額 1,000円～



高齢や病気の保護犬を
“飼い主”として支援
ワンだふるファミリー
月額 3,000円～

1回の寄付 からでも	支援をしたいタイミングで 寄付額や支援目的を選ぶことができます。
寄付控除の 対象です	PWJは「認定NPO法人」として広島県に 認可されています。これにより、PWJへのご寄付は 寄付金の税金控除の対象となります。 ※正会員会費は対象外です。

その他のご寄付

●ふるさと納税

2014年の動物愛護週間(9月20～26日)から、本部がある広島県神石高原町と連携して、「ふるさと納税」を使って犬の「殺処分ゼロ」の活動をご支援いただける仕組みを作りました。自治体と民間が連携し、ふるさと納税の制度を殺処分ゼロに生かす取り組みは、全国初となります。2015年度以降も「ふるさと納税」を活用してPWJをご支援いただくことができます。

●クリック募金

ウェブサイト内のボタンをクリックするだけで寄付ができる「クリック募金」。スポンサー企業が代わりに寄付をするので、支援者の皆さまには一切お金がかかりません。
※JWordクリック募金、社会貢献サービス「gooddo」など

●ブックオフ

ブックオフコーポレーションの協力により、不要になった中古本やCDを無料集荷の上、買取金額がPWJに寄付されます。



●その他

書き損じハガキや未使用切手をPWJへお送りいただく「ハガキフ」、スマートフォンを使って携帯料金と一緒に寄付ができる「かざして募金」、ギフトカタログで選ぶギフト寄付、飛行機のマイレージ寄付などがあります。詳細はPWJのHP「寄付する」のページまで！

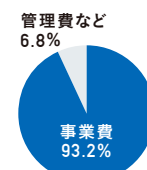


ボランティア

PWJは平日の事務所で作業(フェアトレード商品のラッピング等)やアースデイなどのイベントのお手伝い、保護犬の飼育のお手伝い等を募集しており、学生・社会人・主婦・シニア世代などさまざまな方々が活動しています。翻訳、デザイン、ライティング等、職業上持っている知識やスキルを活かして社会貢献をするボランティア活動(プロボノ)もあります。

ご支援は大切に使います

皆さまからのご支援は、世界中の支援を必要としている人びとのために大切に使用させていただきます。2014年度は、当期支出合計のうち93.2%を事業費に、6.8%を管理費に使わせていただきました。



企業や団体からのご支援

PWJは設立当初より企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視してきました。
今後も企業や団体の特徴とリソースを活かした協業について、さらに可能性を広げていきたいと思います。

企業をあげての社会貢献

企業や団体の社会貢献活動として、2014年度は6社にご協力いただき、東ティモール産フェアトレードコーヒーなどの社内販売会を開催しました。また、従業員が読み終わった本を提供したり、購入したりすることで、それらの売上金を全額寄付していただく古本チャリティ販売会も2社で開催されました。さらに、社内のボランティア活動プログラムの一環として、ゴールドマン・サックスの社員が東北の住民の勉強会に参加してくださいました。



特性を活かしたご支援

衣類や小物を扱うセレクトショップを全国に展開する株式会社ユナイテッド・アローズは、東北支援の一環として、スーツやシューズ、バッグの下取りキャンペーンを展開してくださいました。回収された商品をPWJに寄付いただき、リサイクルショップを運営する株式会社ワットマンに買い取っていただくなどし、2014年度は同キャンペーンで総額1,300,336円をご寄付いただきました。また、VFジャパン株式会社も全国のティンバーランド直営店で下取りキャンペーンを実施してくださいました。

本業を通じた東北復興支援

東北では、東日本大震災の被災地復興支援の一環として、2014年も企業の皆さまに体験教室を開いていただきました。
・子ども化学実験教室
(三井化学株式会社)
・子ども写真教室(キヤノンマーケティングジャパン株式会社)
・コサージュ作り体験教室
(株式会社東京ソワール)



メディア掲載 2014年度も、新聞、テレビ、雑誌などで活動が紹介されました。

【2月】河北新報に宮城県知事と東北駐在スタッフ西城らの対談が掲載【3月】国際ジャーナル3月号で南スーダンの活動が紹介／米紙シアトルタイムズ、週刊ダイヤモンドで東北の活動が紹介【4月】毎日新聞、中国新聞、中国放送などで広島市に開設した保護犬譲渡センターが紹介【6月】時事通信でイラクの活動が紹介【8月】朝日放送「こんなところに日本人」で東ティモール駐在スタッフ永井が紹介／朝日新聞でPWJのサマーキャンプが紹介／NHK、中国新聞で中国雲南省地震の緊急支援が紹介／朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、中国新聞、フジテレビ「めざましテレビ」、広島テレビなどで広島土砂災害の支援活動が紹介【9月】三陸新報で東北の活動が紹介【10月】朝日新聞でPWJ国内事業部長國田の出張授業が紹介／TBS「いっぷく!」で災害救助犬育成・保護犬事業が紹介／朝日新聞で「ふるさと納税」の取り組みが紹介【11月】朝日新聞・天声人語でPWJの災害救助犬「夢之丞」が紹介【12月】中国新聞でフィリピン台風被災者支援に向けたレスキュー隊出動が掲載／毎日新聞で「ふるさと納税」の取り組みが紹介／日本テレビ「スッキリ!!」で災害救助犬育成・保護犬事業が紹介

2014年度高額寄付企業・団体



アサップネットワーク株式会社／アビデ株式会社／FCAジャパン株式会社／株式会社NTTデータ／岡田茂吉研究所 MO UTOPIA-PROJECT／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社協同工業／J.S.Foundation／ジェイワード株式会社／シャディ株式会社／一般財団法人ジャパングィング／高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマソン実行委員会／東栄産業株式会社／バカラ／生活協同組合パルシステム東京／公益財団法人毎日新聞東京社会事業団／丸中製菓株式会社／三井化学株式会社／三菱樹脂株式会社／三菱電機関連労働組合連合会／特定非営利活動法人メタボランティア／株式会社メディコム／Yahoo!ネット募金／株式会社有隣堂／株式会社ユナイテッドアローズ／株式会社ローソン／株式会社ロワール／株式会社ワットマン(50音順)
※20万円以上／社員や顧客などの寄付を集約・代行して入金された金額を含みます。

PWJについて

活動年表

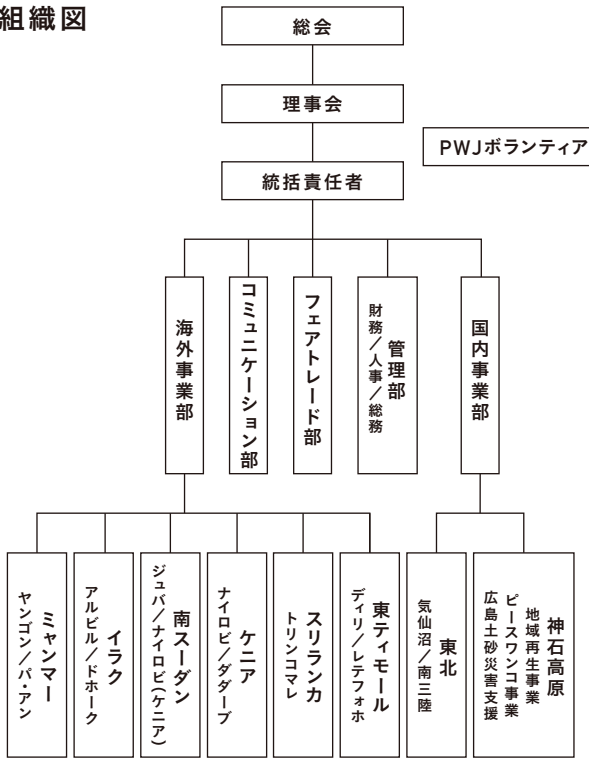
1996	2	ピースウィンズ・ジャパン設立
	3	イラク北部クルド人自治区で支援事業を開始
	8	モンゴルで支援事業を開始
1997	11	インドネシアで支援事業を開始
1999	4	旧ユーゴスラビア・コソボ自治州で緊急支援(～2000年3月)
	9	中国雲南省チベット人自治州で支援事業を開始(～2007年1月)
	10	東ティモールで支援事業を開始 NPO法人格を取得
2001	1	インド西部震災支援(～2001年9月)
	4	シエラレオネで支援事業を開始(～2007年3月)
	11	アフガニスタンで支援事業を開始
	12	アフガニスタン復興NGO東京会議を開催
2003	4	イラク・クルド人自治区外に支援を拡大
	12	イラン・バム震災緊急支援(～2006年2月)
2004	3	リベリアで支援事業を開始(～2010年2月)
	10	新潟県中越地震緊急支援(～2004年11月)
	12	インドネシア・スマトラ島沖地震・津波緊急支援(～2006年3月)
2005	3	静岡県袋井市と「災害時の支援協定」を締結
	9	アメリカ・ハリケーン被災者緊急支援
	10	パキスタン北部地震緊急支援(～2006年5月)
2006	3	東京都葛飾区と「災害時の支援協定」を締結
	5	東京都世田谷区と「災害時の支援協定」を締結
	8	南スーダンで支援事業を開始
2007	7	新潟県中越沖地震緊急支援(～2009年8月)
2008	5	ミャンマー・サイクロン被災者緊急支援(～2009年8月)
2009	7	スリランカで支援事業を開始
2010	1	ハイチ地震緊急支援を開始(～2012年7月)
	3	国税庁により「認定NPO法人」に認定
	11	広島県神石高原町で災害救助犬の育成事業を開始
2011	3	東日本大震災被災者支援を開始
2012	2	ケニアでソマリア難民支援を開始
	7	広島県神石高原町で保護犬事業本格化
	8	フィリピン洪水緊急支援 ニジェール食糧危機緊急支援
	11	イラクでシリア難民支援を開始
	12	フィリピン台風ポーファ緊急支援
2013	4	中国四川省で四川地震被災者支援
	5	ミャンマーのカレン州で帰還支援を開始
	6	シリア紛争人道支援を開始
	8	フィリピン・ルソン島で洪水支援
	9	フィリピン・ミンダナオ島で紛争避難民支援
	11	フィリピン台風緊急支援を開始

2014	2	南スーダンで緊急支援開始
	4	広島市に保護犬譲渡センター開設
	6	イラクで国内避難民支援開始
	8	中国雲南省で地震被災者支援(～2014年12月) 広島土砂災害被災者支援開始
	10	スリランカ地すべり被災者支援
	12	フィリピン台風ハグビート現地調査
	12	神奈川県湘南エリアに保護犬譲渡センター開設

団体概要

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン		
設立	1996年2月		
法人格取得	1999年10月		
事務局有給職員数	52人		
役員	代表理事	大西 健丞	
	理事	石井 宏明	
		桑名 恵	
		渋谷 健司	
		三宅 登志子	
		山本 理夏	
	監事	清水 雄二	

組織図



2014年度 会計報告

収支計算書

2014年2月1日～2015年1月31日

経常収入の部		円	構成比
特定非営利活動に係る事業			
会費収入		45,021,100	1.3%
一般寄付金収入		52,985,287	1.6%
① 特定目的寄付金収入		83,006,508	2.5%
物品・現物等寄付収入		2,862,208	0.1%
政府からの補助金収入		242,171,886	7.2%
国際機関からの補助金収入		1,451,269,626	43.3%
② 民間助成金収入		537,010,300	16.0%
業務受託収入		9,067,246	0.3%
NGO活動支援交付金（ふるさと納税）		66,024,000	2.0%
フェアトレード事業収入（現地での販売収入含）		108,861,513	3.3%
その他チャリティグッズ販売収入		1,334,130	0.0%
その他事業収入		15,388,426	0.5%
その他収入 （保証金返還収入、固定資産売却収入、為替差益等）		91,135,703	2.7%
小計		2,706,137,933	80.8%
その他の事業			
収入		5,777,165	0.2%
当期収入合計		2,711,915,098	81.0%
③ 前期からの繰越金		637,663,657	19.0%
経常収入の部合計		3,349,578,755	100.0%

① 特定目的寄付金収入の内訳

イラク／シリア事業	2,261,052
アフガニスタン事業	87,404
ケニア事業	17,000
南スーダン事業	862,132
スリランカ事業	13,257
ミャンマー事業	3,000
モンゴル事業	60,000
フィリピン事業	378,527
東ティモール事業	967,243
中国事業	1,879,103
東日本大震災事業	28,189,657
広島土砂災害支援事業	4,411,067
保護犬事業	23,662,066
災害救助犬・レスキューチーム事業	215,000
地域再生事業	20,000,000

合計	83,006,508
----	------------

② 2014年度に補助金、助成金、業務委託を受けた主な団体

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（JPFP）／
MercyCorps／外務省／The JTI Foundation／国際連合児童基金（UNICEF）／国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）／国連人道問題調整事務所（OCHA）／公益財団法人パブリックリソース財団／一般社団法人アジアパシフィックアライアンス／株式会社神石高原ティアガルテン／旧仙養ヶ原観光開発組合／神石高原町

③ 前期からの繰越金・次期への繰越金には、補助金、助成金、業務委託、特定目的寄付金等の未使用分を含みます。

経常支出の部		円	構成比
特定非営利活動に係る事業			
①	紛争、災害時に起因する人道上の危機に際し生命・生活を守るための緊急人道支援、および地域の復興と経済的自立のための復興開発支援		
イラク／シリア事業		1,805,358,686	53.9%
アフガニスタン事業		50,259,621	1.5%
南スーダン事業		118,666,557	3.5%
ケニア事業		218,717,688	6.5%
モンゴル事業		300,581	0.0%
スリランカ事業		54,607,014	1.6%
ミャンマー事業		54,542,055	1.6%
フィリピン事業		43,486,178	1.3%
中国事業		29,918,561	0.9%
東ティモール事業		19,288,417	0.6%
フェアトレード事業		83,959,332	2.5%
東日本大震災事業		146,790,209	4.4%
広島土砂災害支援事業		5,265,203	0.2%
捜索救助チーム育成事業		13,503,111	0.4%

②	農業・観光をはじめとする産業の育成と復興、地域医療福祉体制の改善などを通じ過疎化、高齢化などの課題の解決に貢献しまちづくりを推進し、地域社会の活量を過疎化・高齢化等の課題の解決に貢献し、地域社会の活力を高める事業
---	--

	18,031,459	0.5%
--	------------	------

③	捨て犬・捨て猫等の保護および譲渡、動物と人がふれあう場の提供等人と動物の共生をめざす動物愛護の活動を行う事業
---	--

	123,014,560	3.7%
--	-------------	------

④	政府・企業・国際機関などと協力し、紛争の予防と解決、および災害の発生に備える効果的な体制作りに取り組むとともに、援助システムを含む社会のさまざまな制度・しくみの改善を図る事業
---	---

	13,932,568	0.4%
--	------------	------

⑤	機関紙・書籍の発行、報告会、講演会の開催、ウェブサイトの運営、各種の調査・研究および提言等を通じ、活動に関連する情報を発信して市民の関心を喚起し、事業を行うための資金を調達する事業
---	--

	34,342,803	1.0%
--	------------	------

事業費計	2,833,984,603	84.6%
------	---------------	-------

管理費	57,282,684	1.7%
-----	------------	------

その他支出（固定資産購入支出、助成金返還額など）	143,891,920	4.3%
--------------------------	-------------	------

小計	3,035,159,207	90.6%
----	---------------	-------

その他の事業		
--------	--	--

支出	5,777,165	0.2%
----	-----------	------

当期支出合計	3,040,936,372	90.8%
--------	---------------	-------

⑤ 次期への繰越金	308,642,383	9.2%
-----------	-------------	------

経常支出の部合計	3,349,578,755	100.0%
----------	---------------	--------

貸借対照表

2015年1月31日現在

科目		特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
Ⅰ 資産の部				
Ⅰ. 流動資産	現金預金	183,701,649	0	183,701,649
	海外現金預金	137,958,739	0	137,958,739
	売掛金	5,064,731	0	5,064,731
	商品	18,096,530	412,003	18,508,533
	未収入金	27,569,976	0	27,569,976
	「その他の事業会計」立替金	0	260,300	260,300
	立替金	2,229,441	0	2,229,441
	前払金	3,441,035	0	3,441,035
	仮払金	13,321,940	0	13,321,940
	前払費用	20,708	0	20,708
	短期貸付金	500,000	0	500,000
流動資産合計		391,904,749	672,303	392,316,752 [※]
Ⅱ. 固定資産	建物	69,702,837	0	69,702,837
	建物付属設備	18,758,744	477,807	19,236,551
	構築物	6,291,359	0	6,291,359
	車両運搬具	16,617,077	0	16,617,077
	工具器具備品	3,255,203	0	3,255,203
	機械装置	278,870	0	278,870
	生物	693,562	0	693,562
	土地	500,000	0	500,000
	リース資産	7,416,565	0	7,416,565
	建設仮勘定	7,900,000	0	7,900,000
固定資産合計		174,320,443	477,807	174,798,250
資産の部合計		566,225,192	1,150,110	567,115,002 [※]

PWJは、高塚公認会計士事務所
青木幹雄公認会計士事務所による
外部監査を受けております。

科目		特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
Ⅱ 負債の部				
Ⅰ. 流動負債	未払金	48,779,807	0	48,779,807
	未払法人税等	0	260,300	260,300
	預り金	2,746,824	0	2,746,824
	「特定非営利活動に係る事業会計」仮受金	260,300	0	260,300
	未払消費税等	4,960,200	0	4,960,200
流動負債合計		56,747,131	260,300	56,747,131 [※]
Ⅱ. 固定負債	退職給与引当金	9,968,232	0	9,968,232
	リース債務	7,918,500	0	7,918,500
固定負債合計		17,886,732	0	17,886,732
負債の部合計		74,633,863	260,300	74,633,863 [※]
Ⅲ 正味財産の部				
正味財産		491,591,329	889,810	492,481,139
【うち当期正味財産増加額】		△354,381,295	△582,076	△354,963,371
正味財産の部合計		491,591,329	889,810	492,481,139
負債及び正味財産の部合計		566,225,192	1,150,110	567,115,002 [※]

※内部取引260,300を差し引いています。

